

神奈川県立有馬高等学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催しました。

会議名称	令和6年度 有馬高等学校 第3回 学校運営協議会
開催日時	令和7年3月3日(月)
開催場所	有馬高等学校 会議室
出席者	浅井大輔様(社家小学校長) 久保谷由美子様(有馬中学校長) 朽木正美様(社家自治会長) 岡本武志様(PTA会長) 藤原敬子(有馬高等学校長)
会議資料	(1) 令和6年度学校評価報告書(実施結果) (2) 令和6年度校外活動参加状況一覧(別紙1) (3) 第3回授業改善研修資料(別紙2) (4) 保護者からの「これからの有高生の姿」意見一覧(別紙3) (5) 職員企画一覧(別紙4) (6) 有馬カリキュラムマネジメント素案抜粋(別紙5) (7) 有馬高校PTA会報
議事録	<p>(1) 令和6年度 学校評価報告書(実施結果)の報告 ○学校の取組を踏まえて学校評価報告書(実施結果)の説明 ・総合的な探究の時間とグローバル教育の実践の説明(広報特色G) ・授業改善研修の説明(教務情報G) ・有馬高校の進路状況の説明(キャリアG) ・防災教育、「これからの有馬高校生の姿」の説明(生活支援G) ・生徒会行事と部活動の説明(生徒会G) ・地域等との協働の説明(総務渉外G) ・働き方改革に向けた「有馬高校のための企画書」の説明(教頭) ・事故防止の徹底と働き方改革の推進の説明(副校長)</p> <p>(2) 有馬カリキュラムマネジメント素案の説明(校長)</p> <p>(3) 質疑・意見 ○授業研究を実施してみて、生徒の反応の変化や反省等はあるか。 ・授業アンケートからは、視覚的に理解できた等の意見があった。 ・カンボジアツアーに参加した生徒の話を全校生徒が共有することで、自分もできるかもしれないという気持ちの変化が起き始めている。 ○総合的な探究の時間をはじめとして、多くのことに挑戦しており、高校へ送り出す側としても嬉しい気持ちである。PDCAサイクルに乗せ、取組を行っていることが分かる。 ○あいさつ運動に有馬高校の生徒も参加してもらい、中学校の職員、生徒も喜んでいて。今後も続けられるとよい。 ○中学生や高校生の取組を、小学校の教諭が見学できる機会があると良いと感じる。 ○総合的な探究の時間で来年度以降のような波及効果を狙って指導していくのか。 ・総合的な探究の時間だけでは時間の限りがあるので、教科横断型でさまざまな教科をつなぎ合わせながら指導をしていきたいと思っている。 ○交通マナーの改善に向け、地域の方と情報を共有していきたい。 ○今後も、生徒に対して、仕掛けやきっかけを提供し、取組を続けて欲しい。</p> <p>(4) 有識者による評価 【教育課程・学習指導】 ・総合的な探究の時間をはじめとして、毎年多くのことに挑戦をしていることを感じる。丁寧な取組で、しっかりとPDCAサイクルに乗せることでより良い取組へとつなげている。有識者を招聘して多角的情報とテーマ探究学習を多数回実施したことは、正確な情報を提供し、生徒の思考を巡らせる機会となり意義のあることである。 ・外部講師を招いた授業改善研修の実施により、組織的な授業改善を行える体制が構築できている。さらなる研修の実施を継続し、よりよい授業の提供が浸透していくことを期待する。 【生徒指導・支援】 ・生徒自身の自発的行動を促すことは、豊かな人間性の育成に効果的である。 ・サポートドックでのプッシュ型面談を実施できたことは効果的であった。今後、的確なタイミングでの支援、外部諸機関との連携、個別アセスメント等、さらに組織的支援体制を充実できるとよい。 【進路指導・支援】 ・生徒が特別活動の意義を理解して取り組むために、行事内容を積極的に発信する機会の充実を図ると良い。 ・進路支援において、チャレンジする生徒を増加させるために、生徒自身の将来像の解像度を上げることが重要である。また、進路希望を確固たるものにするために、より早期に進路を考えさせる機会の提供が必要である。 ・生徒自身が学ぶことの意義を考えられるような指導が進学後の学びにもつながる。 【地域との協働】 ・防災キャンプや避難体験等の実施は、生徒自身の防災意識を格段に向上させる安全教育に大きく寄与している。 ・学校美化等の社会参画の意識は、より参加を促す工夫を実施する必要がある。 ・地域清掃活動など、中学校とも連携して、何か一緒にできることがあればよいと考える。 【学校管理・学校運営】 ・職員の人的資質向上にあたっては、職員と生徒の倫理概念を向上させるような情報提供の場を設け、意識的な啓発を行うことが必要である。</p>